

2019年12月3日 中日新聞に**全国初!** 大府商工会議所様とHelpan171の協定を取り上げて頂きました。

中部経済新聞に大府商工会議所様とHelpan171の代理店契約調印式を取り上げて頂きました。

備蓄パン 災害時に融通

名古屋の法人 大府商議所が業務代行契約



調印した契約書を持つ鬼頭会頭(左)と北森代表理事(右)大府商議所で

大府商工会議所(鬼頭治会頭)は、災害時に備蓄したパンを企業や団体で融通し合うネットワーク「Helpan(ヘルパン)171」に商工団体として初めて加入。運営する一般社団法人「プレイクスルーバンク」(名古屋瑞穂区)と二日、商議所で契約調印式を開いた。

産施設で製造された長期保存可能なパンを、協賛する「パートナー」の企業や団体が購入して備蓄する仕組み。他の地域で災害が起きた際には、ネットワークを通じて被災地救援物資としても活用できる。大府商議所は、プレイクスルーバンクの業務を代行して会員企業や地域のパートナーにパンを販売する。二月に設立



中部経済新聞

大府会議所

備蓄パンで災害支援

プレイクスルーバンクと契約

【大府】大府商工会議所(鬼頭佑治会頭)は二日、備蓄パンで災害支援を行うネットワーク「Helpan(ヘルパン)171」を運営する一般社団法人「Breakthrough Bank(プレイクスルーバンク)」(本部名古屋、北森勝也代表理事)と代理店契約を結んだ。同会議所で鬼頭会頭と北森代表理事が調印式を行った。



契約調印した鬼頭会頭(左)と北森代表理事

5年間保存できる備蓄パンを大府商工会議所を通じて、会員企業や協賛パートナー企業、個人などに販売。被災地からの支援要請があれば、それを無償提供してもらおう。賞味期限の半年前には、こども食堂や学童保育に無償で食糧提供もできる。

自らが被災した時には社員用に使えるほか、パンをつくる障害者の就労支援、被災地の支援、子育て支援の三つの社会貢献にもつながる仕組みという。

現在、東海3県を中心に自治体や企業など約70の代理店があり、協賛パートナーは380社・団体・個人。1口1万円(備蓄パン40個)で、これまでに約4万口を販売している。

されたばかりのプレイクスルーバンクは現在、中部圏を中心に約七十の代理店と三百八十のパートナーが加盟する。

十月の台風19号による風水害では、被災当日に名古屋と金沢のパートナーから寄せられた備蓄パン二千食を、長野市の避難所に届けた実績がある。

プレイクスルーバンクの北森勝也代表理事は「全国のネットワークを目指すなかで、初めて商工会議所と提携できて勇気ももらった」とあいさつした。

(栗山真寛)